

令和5年度岩倉市行政評価委員会 行政評価結果報告書

令和5年度に開催した岩倉市行政評価委員会において、令和4年度実施施策の一部の評価を行った。

委員会には、施策担当課長が出席し、施策や取組の内容、指標の実績、分析状況を説明、質疑を踏まえて、委員全員が評価し、本委員会としての評価を取りまとめたものである。その結果の概要について報告する。

1. 総括

令和5年度は、現行の評価制度開始後、本委員会による2年目の評価として、昨年度評価と併せて岩倉市第5次総合計画の全ての施策を一巡した。昨年度以上の評価対象施策数であったが、概ね順調に進めることができた。

評価は、取組内容と成果指標のそれぞれの達成度を組み合わせたものとしており、取組内容についてある程度の取組ができていることは昨年度同様であったが、成果指標については、コロナ禍の収束とともにイベントや事業を実施する上での様々な制限が緩和されたことなどにより達成度が上昇し、全体としてB評価の「施策がめざす将来の姿に向け、概ね順調に進んでいる」の割合が高くなったものである。

また、コロナ禍前の水準に戻すだけでなく、新たな取り組みにより上昇した指標も見受けられる点も評価できる。目標に向け、さらなる達成率の向上に期待したい。

今後に向けては、単位施策ごとの取組内容等について第5次岩倉市総合計画基本施策評価シートに本委員会からの評価やコメントを付したため、各担当課においては、本委員会での評価結果、委員からの質問や意見を踏まえて、記載内容や取組内容の改善に努め、施策を推進してもらいたい。

2. 評価対象施策

今年度は岩倉市第5次総合計画基本目標のうち、昨年度評価を実施していない第3章、第4章、第5章の一部（18基本施策、50単位施策）を評価対象とし、評価を行った。

3. 評価結果

今年度の評価対象施策50単位施策のうち、「A 施策がめざす将来の姿に向け、順調に進んでいる」が1施策、「B 施策がめざす将来の姿に向け、概ね順調に進んでいる」が33施策、「C 順調とまでは言えず、取組内容に改善・努力が必要」が15施策、「D 取組に一層の努力が必要又は取組及び指標の見直しが必要」が1施策となり、昨年度の評価対象施策（第1章、第2章、第5章の一部（14基本施策、36単位施策））を含めた全体86単位施策の評価としては、「A 施策がめざす将来の姿に向け、順調に進んでいる」が2施策（構成比2.3%）、「B 施策がめざす将来の姿に向け、概ね順調に進んでいる」が49施策（同57.0%）、「C 順調とまでは言えず、取組内容に改善・努力が必要」が34施策（同39.5%）、「D 取組に一層の努力が必要又は取組及び指標の見直しが必要」が1施策（同1.2%）となった（次表参照）。

	評価結果					計
	A	B	C	D	E	
令和4年度評価 (令和3年度実施施策)	1	16	19	0	0	36
令和5年度評価 (令和4年度実施施策)	1	33	15	1	0	50
計	2	49	34	1	0	86
構成比	2.3%	57.0%	39.5%	1.2%	0.0%	100.0%

A…施策がめざす将来の姿に向け、順調に進んでいる

B…施策がめざす将来の姿に向け、概ね順調に進んでいる

C…順調とまでは言えず、取組内容に改善・努力が必要

D…取組に一層の努力が必要又は取組及び指標の見直しが必要

E…取組ができておらず、単位・個別施策の見直しの検討も必要

※構成比は小数点第2位を四捨五入

※単位施策ごとの評価結果は「令和5年度行政評価結果（令和4年度実施施策）」のとおり

4. 実施日時

開催日時	会場
令和5年10月3日（火）午後2時から	市役所7階 第2・3委員会室
令和5年10月24日（火）午前9時から	市役所7階 大会議室
令和5年11月8日（水）午後2時から	

5. 岩倉市行政評価委員会委員名簿

	氏名	選出区分
委員長	千頭 聡	識見を有する者
副委員長	小松 尚	
委員	川中 保	企業の代表者 労働組合の代表者 市民活動団体の代表者 市民の代表者
	宇佐美 隆久	
	松浦 賢司	
	村上 貴司	
	三輪 紀光	
	水野 孝司	
	吉田 朋恵	
万年 真衣		

6. 次年度評価に向けた提言

限られた時間の中で、より効率よく適切な評価を行うため、年度単位の委員会開催数の増や、評価対象施策数の減（3年度で評価1巡等）、評価シートを簡潔に把握しやすい内容とする等、1つ1つの施策についてより深い議論ができるような改善を検討してほしい。